

職務経歴書

[20XX 年 XX 月 XX 日] 現在 氏名 [氏名]

角括弧の案内を自分の経験に置き換え、案内文と提出前確認を削除して提出してください。応募先の指定様式を優先し、必要に応じて項目やページ数を調整します。

職務要約

[どの分野で何年間、どの工程を担当したかを記入します。代表的な研究テーマ、自分の役割、作成した成果物、その成果物が使われた判断を、3～4 文でまとめます。製品化や売上への貢献は、裏付けがある範囲だけ記載します。]

勤務先と担当

在籍期間 [20XX 年 XX 月～現在] 雇用形態 [正社員など]

勤務先 [社名] [事業内容] [所属部門]

役割 [役職または担当] チーム [X 名] 自分の担当範囲 [範囲]

研究テーマ 1

期間とテーマ [20XX 年 XX 月～20XX 年 XX 月] [公開できる名称]

課題と目的 [何が未解決だったか。何を比較し、どの判断につなげるか。]

自分の担当 [仮説設定、実験計画、測定、解析、報告のうち実際に担った工程。]

方法と条件 [機器、手法、比較対象、試験数、判定基準を公開可能な範囲で。]

成果と役割 [成果物と採用された判断。数値は基準、期間、対象、自分の担当も。]

研究テーマ 2

期間とテーマ [20XX 年 XX 月～20XX 年 XX 月] [公開できる名称]

課題と担当 [課題と、自分が担った工程。テーマ 1 と異なる強みを示します。]

方法と成果 [比較条件、成果物、関係部門がその成果物を使って決めたこと。]

※ 未公開の製品名、顧客名、試験条件、出願前の内容は、開示可否を確認して一般化します。

活かせる機器 操作技術 解析スキル

機器や技術	経験期間	自分でできる作業と使用目的
[分析機器や手法]	[X 年]	[前処理から測定、解析まで単独でできる範囲。支援が必要な作業も区別。]
[実験や評価手法]	[X 年]	[どの仮説や品質項目の検証に使ったか。再現性の確認方法。]
[ソフトや言語]	[X 年]	[自作した処理、扱ったデータ、検算やレビューの範囲。]
[調査や連携]	[X 年]	[特許調査、技術報告、共同研究、部門調整などの担当範囲。]

研究業績

[論文、特許、学会発表、共同研究などから応募先に関連するものを記入します。公開番号や書誌情報、自分の立場を明記し、出願と登録、共著と筆頭著者を区別します。該当しない項目は削除します。]

[例：公開済みの論文名・著者・掲載誌・年 / 公開特許番号・発明者としての担当]

資格と語学

[資格名・取得年月] [語学スコア・受験年月]

[英語での論文読解、報告書作成、会議、発表など、実際に行った業務。]

自己PR

[強みを一つ示し、その強みを使った案件、自分の行動、成果物や判断の変化を記入します。最後に、応募先のどの工程で同じ強みを再現できるかを書きます。未経験の作業を経験済みとして書かないでください。]

[応募先の募集業務] に対して、[自分が担える工程] で貢献します。[不足している知識や技能] については、[現在取り組んでいる学習や実践] を進めています。

提出前確認

- ☐ 年月が履歴書と一致 ☐ チーム成果と自分の担当を区別
- ☐ 数値の比較条件を説明できる ☐ 守秘情報を削除または一般化
- ☐ 出願や共著などの立場が正確 ☐ 募集業務に関係する経験を優先
- ☐ 角括弧と案内文と本欄を削除 ☐ PDF で改ページと文字切れを確認